

【フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	栃木県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	栃木県小山市立若木小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	2	2	2	2	2	13	19
児童数	51	38	49	41	50	59	7	295	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じた指導方法・指導体制の追究
～個に応じたコース別学習の追究～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数科(理解度の差が大きいという実態があったため)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度

テーマ
「確かな学力」の向上を図るための指導の工夫
～個に応じた指導方法及び指導体制の工夫改善～

研究の見通し(仮説)

(1) 少人数指導(習熟度別学習等)・教科担任制等、個に応じた指導方法・指導体制を工夫改善すれば、基礎・基本の確実な定着や自ら学び自ら考える力の育成ができ、確かな学力(育てたい能力・態度)の向上を図ることができるであろう。
.....(授業研究部、教材開発・評価研究部)

(2) めざす児童像、育てたい能力・態度の明確化、児童や地域の実態を把握し、保護者の啓発に努めるとともに、朝の読書等において集中力を高めたり、業間時間に計算タイムや漢字タイムなどを計画的に位置付けたりするなど、学校教育全体を通して系統的、継続的に取り組み、学びの機会を充実させれば、確かな学力(育てたい能力・態度)が向上するであろう。.....(企画部)

研究の内容・方法

(1) 個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善
ア 算数科を中心に、理解や習熟の程度に応じた指導等コース別学習の在り方を研究する。
イ 発展的な学習や補充的な学習等個に応じた指導のための教材を開発する。

(2) 指導に生きる評価の工夫改善
ア 具体的な評価規準を設定する。
イ 指導と評価の一体化を図るため、多様な評価方法を研究する。

(3) 基礎学力や基本的な学習習慣及び学び方を定着させるための工夫
ア 集中力、読解力、漢字力、計算力の向上を図るための時間の活用を図る。
イ 効果的なノートの取り方、自主的な学習への取り組みを工夫する。

(4) 家庭との連携
ア 学校だより・学年だよりを活用した啓発を工夫する。
イ 授業参観・懇談会の充実を図る。

テーマ
個に応じた指導方法・指導体制の追究(第2年次)
～個に応じたコース別学習の追究～

研究の見通し(仮説)

(1) 児童一人一人の学力の向上を図る指導方法・指導体制として、少人数指導(コース別学習等)を通して、個に応じたきめ細かな指導を工夫改善すれば、確かな学力(育て

- たい能力・態度)の向上が図れるであろう。……………(授業研究部、評価研究・教材開発部)
- (2) めざす児童像、育てたい能力・態度の明確化、児童や地域の実態の把握、保護者の啓発に努めるとともに、朝の読書、業間時間の計算タイムや漢字タイムを通して、系統的、継続的に取り組み、学びの機会を充実させれば、確かな学力(育てたい能力・態度)が向上するであろう。……………(企画部)

研究の内容・方法

- (1) 個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善
- ア 算数科を中心に、理解や習熟の程度に応じた指導等コース別学習の追究をする。
- イ 発展的な学習や補足的な学習等個に応じた指導のための教材を開発する。
- (2) 指導に生きる評価の工夫改善
- ア 指導と評価の一体化を図るため、多様な評価方法を研究する。
- イ 指導に生かせるより具体的な評価規準を設定する。
- (3) 基礎学力や基本的な学習習慣及び学び方を定着させるための工夫
- ア 集中力、読解力、漢字力、計算力の向上を図るための時間の活用を図る。
- イ 効果的なノートの取り方や自己評価を生かした自主的な学習への取り組みを工夫する。
- (4) 家庭との連携
- ア 学校だより・学年だよりを活用した啓発を工夫する。
- イ 授業参観・懇談会の充実を図る。

研究内容変更理由

「確かな学力」の向上を図るための指導の工夫をテーマに1年目の研究を推進した。2年目においては、さらに個に応じた指導方法・指導体制の追究が必要と考え～個に応じたコース別学習の追究～をサブテーマに主題に迫ることとした。

テーマ

個に応じた指導方法・指導体制の深化(第3年次)

～少人数指導の充実～

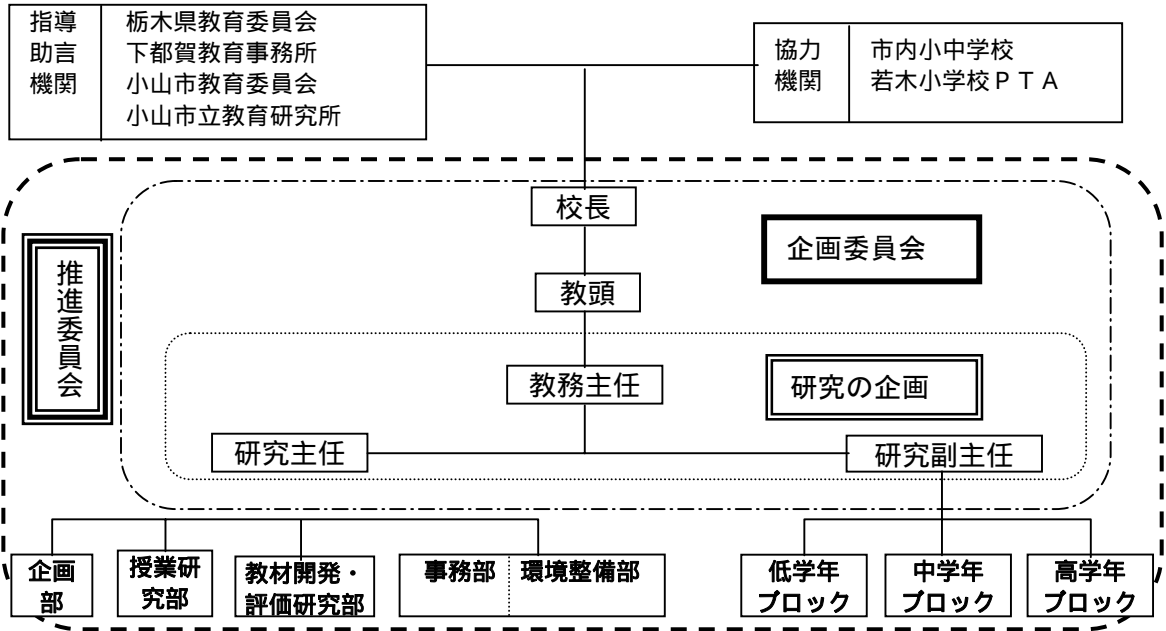
研究の見通し(仮説)

- (1) 児童一人一人の学力の向上を図る指導方法・指導体制として、少人数指導の充実を目指し、個に応じたきめ細かな指導を工夫改善すれば確かな学力(育てたい能力・態度)の向上が図れるであろう。
- (2) めざす児童像、育てたい能力・態度の明確化、児童や地域の実態の把握、保護者の啓発に努めるとともに、朝の読書、業間時間の計算タイムや漢字タイムを通して、系統的、継続的に取り組み、学びの機会を充実させれば、確かな学力(育てたい能力・態度)が向上するであろう。

研究の内容・方法

- (1) 個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善
- ア 算数科を中心に少人数指導を進め、個に応じた指導の追究をする。
- イ 発展的な学習や補足的な学習等個に応じた指導のために教材の活用を工夫する。
- ウ 算数で得られた成果を他教科の指導に生かす。
- (2) 指導と学習に生きる評価の工夫改善
- ア 評価による指導の改善とその蓄積・共有を図る。
- イ 自己評価を生かして児童が自ら学習を進めていけるよう指導援助する。
- (3) 基礎学力や基本的な学習習慣及び学び方を定着させるための工夫
- ア 集中力、読解力、漢字力、計算力の向上を図るための時間を工夫する。
- イ 「チャレンジタイム」と家庭学習を連動させ、自主的な学習の充実を図る。
- (4) 家庭との連携
- ア 学校だより・学年だよりを活用し学習指導への理解と協力を得る。
- イ 授業参観・懇談会の充実を図る。
- (5) 地域への普及

(3) 研究推進体制



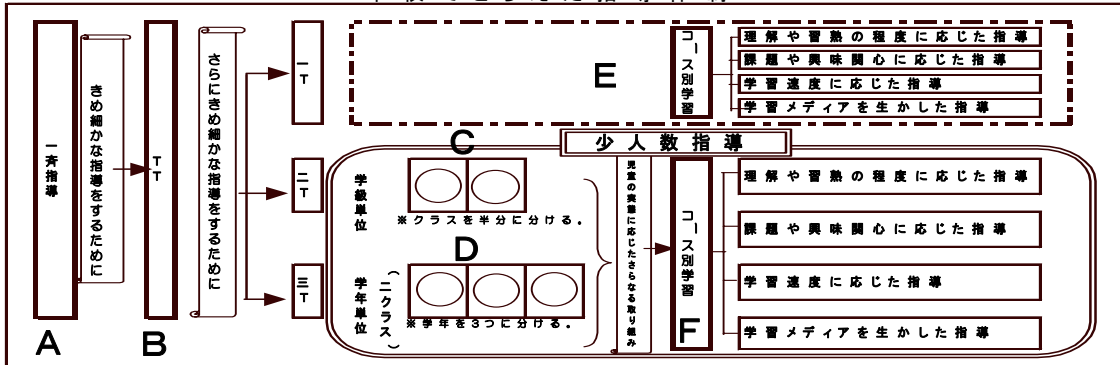
平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

成果

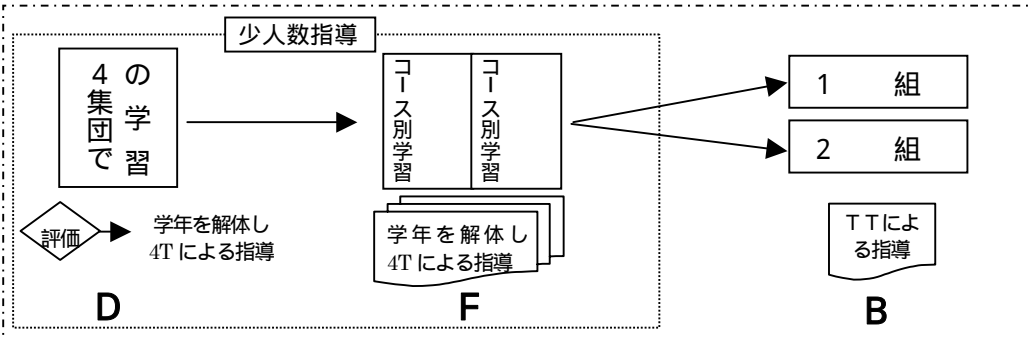
(1) 個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善

本校でとらえた指導体制



少人数指導を図のようにとらえることにより、単元の構想を明確にすることができた。

3年【重さ】領域「量と測定」の単元構想



(2) 「数と計算」領域において

コース別学習におけるコース選択では、自己評価(『振り返りカード』)を活用したことにより自己評価力が高まったこと、「児童の実態にあったコース内容の組み立て」等の支援を工夫したことなどから、児童自身が自分に合ったコースを選ぶことができるようになってきた。又、低学年でも、診断テストを取り入れたコース別学習を工夫した結果、児童自身が自分のつまずきに気付き、それを克服しようとして学習内容を選択し、意欲的に取り組む姿が見られるようになった。

